

「Team Noah GR Supra GT4」 タイチームとのジョイントで 8 位完走



ENEOS スーパー耐久シリーズ 2023 supported by BRIDGESTONE(S 耐)に年間エントリーする「Team Noah GR Supra GT4」は、11月11～12日に富士スピードウェイ(静岡県)で開催されたシリーズ第7戦(最終戦)「S 耐ファイナル 富士 4 時間レース in フジニッケフェス。」の ST-Z クラスにトヨタ・チーム・タイランドとのコラボレーションで参戦。クラス参加 11 台中 8 位で完走した。

福岡に本拠を置く Team Noah(代表:清瀧雄二)は、“九州に元気を!九州のモータースポーツにもっとワクワクを!”を合言葉に九州のレーシングチームとして 2018 年より S 耐に参戦を開始。2021～22 年はホンダ・シビック TCR で、ST-TCR クラスチャンピオンを獲得した。今季はマシンを GT4 規定の GR Supra GT4 EVO へ替え、クラスも毎戦 10 台近くがエントリーする激戦区の ST-Z クラスへステップアップ。今回は 2014 年からニュルブルクリンク 24 時間に参戦、2017～19 年には SUPER GT シリーズ GT300 クラスにフル参戦し来季の S 耐参戦を検討中のトヨタ・チーム・タイランドとコラボレーションすることになり、蘇武”ソブポン”喜和、ナタウッド・ジャルーンスルカワツタナ(60)、ナタボン・ホートンカム(42)、そしてグランツ・スパボン(47)の計 4 名で 4 時間レースに臨んだ。今回の ST-Z クラスエントリーは、国内外の GT4 マシン 5 車種計 11 台と相変わらずの激戦区となった。

11 日の予選は、冷たい雨が時おり降りコースを濡らす難しいコンディションで行われた。タイ人ドライバーたちは、このレースウィークに初めて富士で GR スーパ GT4 をドライブ。さらに 10 日と 11 日朝の専有走行はほとんどがウェットコンディションだったため、満足な慣熟走行ができないまま予選を迎えた。まずは A ドライバーのナタウッドが 8 位につけ、B ドライバーの蘇武が 7 位。ドライバー 2 名のベストタイム合算で、総合 14 位、クラス 7 位となった。またナタボン、グランツも基準タイムをクリアした。

12 日は曇天ながら前日ほどの寒さもなく、朝早くから 2 万 6,500 人のファンが富士に詰めかけた。4 時間の決勝レースは、まず蘇武が混乱するスタートを担当し、レースが落ち着いた頃からタイ人ドライバーに 9 クラス混走である S 耐レースの雰囲気を経験してもらう。このため最後までトラブルやアクシデントなく無事につながることが肝心だ。気温 12℃の 12 時 29 分に決勝はスタート。すると 1 コーナーで蘇武の前の 2 台が接触ストップし順位を 5 位に上げた。しかしナタウッドのこれまでの戦績がジェントルマンドライバーとして優秀ということで、ドライブスルーのハンディキャップを背負うことになり、蘇武は 5 周目にピットインして順位を落とすことになった。他の車両が早めのピットインをする中、蘇武は周回を重ねクラス 3 位走行中の 42 周でピットインしここでナタボンに交代した。

タイ人ドライバーのトップバッターとなったナタボンは GT でも走り慣れた富士を短めの 17 周、40 分ほどを走りピットイン。交代したグランツは初めて走る富士をステディに周回し、29 周、約 1 時間を走り 8 位でベテランのアンカー、ナタウッドに交代した。夕陽が差し徐々にトワイライトタイムを迎える中、ナタウッドは安定したラップタイムを刻み 36 周、約 80 分を走り 8 位でチェッカー。無事 4 時間レースで完走を果たした。トヨタ・チーム・タイランドは手応えを感じ、来季はクラス、車両は未定ながら S 耐への参戦を予定している。これで Team Noah の今季の活動は無事終了。来季も GR スーパ GT4 で S 耐への参戦を継続する予定。

ナタウッド・ジャルーンスルカワツタナ「久しぶりに日本に戻って来ました。GT4 のクルマはタイでテスト走行はしているのですが、レースに出るのは初めてでした。S 耐は初めての経験で、SUPER GT とはやはり違いますね。乗ってみるとこのセッティングなどのやり方、チームの感触も最高でしたし大いにドライブを楽しむことができました。来年日本に来たら、またよろしく願います」

蘇武”ソブポン”喜和「S 耐で海外の方と組むのは初めてだったのでどういうレースになるのかと思っていたのですが、皆さん海外のレース経験も豊富で、僕がクルマを作ってみんながそれに合わせようという形になったのですごくやりやすかったです。皆さん意識は高いこちらにも良い経験になりました。クルマも進化していて来年に向けて良い形で終わったのではないかと思います」

ナタボン・ホートンカム「SUPER GT で富士も走ったことは何度もありますが、今回は初めての S 耐でした。コース上のクルマの台数がとても多くて驚きましたが、慣れてしまえば大きな問題はありませんでした。とても良い経験になりましたね。来年は S 耐に出ることになるとは思いますが、今回の経験を生かして今回以上にレースを楽しみたいですしもっと良い結果につなげたいと思います」

グランツ・スパボン「これまで TCR のレースを中心に走っていて、日本でも走った経験はあります。今回初めて富士を走りましたが、今回はクルマの台数がとても多くてすごく難しいレースになりました。でもすごくエキサイティングで楽しかったです。スーパは良いクルマで好きなタイプですね。来年は日本に戻って来て S 耐に参加する予定ですので、日本の皆さんよろしく願います」